

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 小牧 幸代	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>①調査・研究</p> <p>2016年度は、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））「インド・イスラーム表象の観光化と芸術化：テーマパークとモダンアートを中心に」（研究代表者：小牧幸代）の研究期間の2年目であり、研究計画にしたがって、これまでに収集した世界各地のテーマパークにおける「イスラーム風アトラクション」「宗教ナショナリズム的アトラクション」「愛国アトラクション」等に関するデータの整理と分析を継続するとともに、インターネットや文献資料を通じて最新の関連情報を収集した。さらに、インドとスペイン・ポルトガルにおいて現地調査・資料収集をおこなった。具体的には、イスラーム表象の観光化について、マハーラーシュトラ州のコーポリー、プネー、テランガーナ州のハイデラバード、首都ニューデリーの各地で、テーマパーク、ショッピングモール、ギフトショップなどを調査するとともに、ゲストやスタッフにインタビューをおこなった。芸術化の事例に関しては、ハイデラバードにおいて、イスラーム・アートに従事するアーティスト5人および関係者5人にインタビューをおこなった。スペインとポルトガルでも、アミューズメントパークおよび世界遺産等の観光施設で観察される宗教性に関する現地調査と資料収集をおこない、キリスト教表象とイスラーム表象の関係のあり方に、インドとは異なる形態の宗教間の非対称性を発見することができた。</p> <p>2016年度に新規採択された科学研究費助成事業（科学研究費補助金（基盤研究（A））「<ジェンダーに基づく暴力>の文化人類学的研究」（研究代表者：京都大学人文科学研究所教授・田中雅一）に関して、2016年度は「女性と少女への名誉に基づく暴力および犯罪」をテーマとした現地調査・資料収集をパキスタンで実施した。具体的には、ラホールとカラチの女性支援NGO団体でインタビュー調査をするとともに広報誌などの資料を収集した。また、テレビ、ラジオ、新聞など各種メディアに属するジャーナリストにインタビューをするとともに、アメリカのNGO団体とパキスタンのNGO団体が共催するセミナーに参加し、スタッフ、ソーシャルワーカー、臨床心理士らから現地情報を収集した。そして、前年度までに実施したノルウェーのパキスタン系移民社会の調査も踏まえ、研究会において成果の中間報告をおこなった。</p> <p>同時進行中の3つめの研究テーマ「聖遺物信仰の21世紀的展開とバレーリー派の思想・運動」については、2016年度に新規採択された科学研究費助成事業（科学研究費補助金（基盤研究（B））「地中海周辺域における聖者・聖遺物崇敬の人類学的研究」（研究代表者：上智大学教授・赤堀雅幸）の研究会・合宿と東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究「イスラームに基づく経済活動・行為」（代表：福島康博）の第2期研究会への参加を通じて、世界各地のイスラームおよび研究動向に関する最新の情報収集と積極的な意見交換をおこなった。</p> <p>2015年度に開始された日本文化人類学会課題研究懇談会「嗜好品の文化人類学」（代表：大坪玲子）の研究会には、昨年度に引き続いて参加し、世界各地の嗜好品に関する知見を広めると同時に、地域的事項に関する情報を収集した。また、「インドの嗜好品パーン；たしなみともてなしの文化」というタイトルで研究発表をおこなった。</p> <p>最後に、ノルウェーをはじめとするヨーロッパのパキスタン系移民社会との比較の視点をもつために、在日パキスタン人のコミュニティ形成のあり方を研究するための予備的調査をおこなった。パキスタン人同士のカップルが多いヨーロッパと比べて、</p>	

日本ではパキスタン人男性と日本人女性の国際結婚が多いという印象だが、実態はこれからの本格的な調査を通じて明らかにしていきたい。在日パキスタン人と日本人の関係、学校や地域社会における多文化主義の取り組みや課題に注目することで、今後はマクロとミクロの両方の視点から「移民」「移動」の問題を考えていく計画である。

②論文・著書・エッセイ

◆「イスラーム復興と宗教商品をめぐるグローバルビジネス：現代南アジアにおける聖遺物信仰の再活性化とその背景」『高崎経済大学地域政策学会ディスカッション・ペーパー2016-02』2016年5月。

◆「パキスタン系移民社会と強制結婚：ノルウェーの事例を中心に」『高崎経済大学地域政策学会ディスカッション・ペーパー2016-03』2017年3月。

2 その他の事項

2016年度は、2015年度に続いて観光政策学科学科長として、前期はホスピタリティ実習、後期はリレー講義「観光政策を学ぶ」を担当した。前者は、実習先企業、本学事務、非常勤講師の先生方、そして実習運営委員の学科教員との連携で学生の実習をサポートするものであり、通常の教育研究とは異なる貴重な経験となった。後者では、学科教員の講義をサポートしながら、学生時代に戻ったような感覚で、専門分野の異なる同僚の話に耳を傾けた。いずれも、本学における教育研究のあり方をこれまでとは異なる立場や視点から見直すよい契機となった。同時に、自分自身の教育研究活動の今後を考えるうえで非常によい刺激となった。

3 次年度以降の計画・抱負

2017年度は、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））「インド・イスラーム表象の観光化と芸術化：テーマパークとモダンアートを中心に」（研究代表者：小牧幸代）の研究期間の3年目となる。また、科学研究費助成事業（科学研究費補助金（基盤研究（A））「〈ジェンダーに基づく暴力〉の文化人類学的研究」（研究代表者：京都大学人文科学研究所教授・田中雅一）ならびに科学研究費助成事業（科学研究費補助金（基盤研究（B））「地中海周辺域における聖者・聖遺物崇敬の人類学的研究」（研究代表者：上智大学総合グローバル学部教授・赤堀雅幸）の研究期間の2年目でもある。したがって、インド、パキスタン、ノルウェーを中心に、ムスリム社会の宗教、娯楽、観光、芸術、女性、暴力、移民に関する現地調査と文献研究を継続するとともに、収集蓄積されたデータの整理・分析をおこない、研究発表と論文執筆に取り組む。

その一方で、これまでと同様、研究成果を、つねに日本社会の類似の現象や出来事と関連づけて考察し、最新の世界情勢（特にイスラームを中心とした宗教と政治・経済の問題）や異文化理解・多文化主義のあり方の現状を、大学教育の現場で、専門知識をもたない学生にも分かりやすく解説する。地方公務員やインバウンド観光業界への就職を希望する学生にとっても有益な講義・演習となるよう工夫を凝らす（具体的には、写真や現物を見せたり触らせたり、エピソードを紹介したりすることで異文化を疑似体験させる）ことで、国際的な視野と知識を備えて地域社会で活躍する人材の育成に貢献したい。